

◎ 各消毒の方法による効果の違い

	効果有
ウイルス	エタノール(アルコール) 次亜塩素酸ナトリウム(塩素) 熱(煮沸・蒸気)
結核菌	エタノール(アルコール) 両性界面活性剤 熱(煮沸・蒸気)

◎ 芽胞について

熱に対しても消毒薬に対しても一番強い抵抗性をもっているのは、炭そ菌や破傷風菌などの芽胞である

◎ 殺菌作用の3要素

消毒薬の効力は、温度・濃度・時間に大きく左右される

◎ 水

熱には乾熱と湿熱(煮沸や蒸気)がある。病原微生物の成分であるタンパク質を変化(変性)させ生活力を奪うのが熱殺菌の原理であるが、タンパク質の熱変性には含有する水分が関係し、水分の多いほうが低い温度で熱変性(凝固)を起こしやすいためである。

◎ 消毒薬・消毒液の使用、保存上の注意

- ①消毒薬は日光が直接あたらないところに、栓をかたくして保存する
(塩素剤は、日光と熱によりぶんかいされ、効力がよわくなるので、原則として冷暗所(15℃視以下)に置かなければならない)
- ②食品などとまちがえやすい容器や場所に入れておいたり、子供の手の届くところに置いたりしてはいけない
- ③消毒用エタノールは、蒸発や汚れの程度にもよるが、7日以内に取りかえるようにする。
- ④その他の希釈した消毒液は、毎日取りかえなければならない
(使用頻度が激しく、汚れが目立つようであれば、すぐに取りかえるようにする)

◎ 創傷用の消毒薬に望まれる条件

- ①人体に対する毒性が弱いこと
- ②使用時に刺激が少ないこと
- ③傷口の回復を阻害しないこと
- ④作用が持続すること

◎ すぐれた消毒法の条件

- ①消毒の効果が確実であること
- ②短時間に消毒されること
- ③方法が簡単であって、費用も多くなからないこと
- ④消毒する物件を損なわない方法であること
- ⑤いつでも、また、どこでも実行できる方法であること
- ⑥消毒を行う際に人畜に対して毒性が低いこと
- ⑦消毒した物件に悪臭を残さないこと
- ⑧必要であれば、表面のみでなく、内部をも、消毒しうること

◎ 消毒を行う際の注意事項

- ①消毒するものの性質に注意し、適当な消毒薬や消毒法を選ぶこと
- ②病原微生物の種類、抵抗力に応じた方法、時間などを考えること
- ③消毒薬は、ときどき新しくつくりなおすこと
- ④薬品は密栓し、冷暗所に保存すること。ラベルを汚さないようにして、他のものとよく区別しておくこと
- ⑤食品に使う容器を使用してはならない

◎ 器具類の消毒法の選び方

	適する消毒法	備考
ガラス器、陶磁器など	紫外線、煮沸、蒸気、各種の薬液消毒	材質的には、ほとんどすべての消毒法を用いてさしつかえない。
金属製品	逆性せっけん、両性界面活性剤 グルコン酸クロルヘキシジン エタノールで拭く、紫外線、蒸気、煮沸	刃物の場合は切れ味をそこなわず、さびもでないエタノールで拭く方法が適している。
クリッパー類	逆性せっけん、両性界面活性剤 グルコン酸クロルヘキシジン エタノールで拭く、紫外線	
セルロイド、プラスチック、ゴム 竹、木、べっこう、象牙など	逆性せっけん、両性界面活性剤 グルコン酸クロルヘキシジン 紫外線	エタノール、加熱消毒は避ける。また、長時間薬液につけることも避けること。
タオル	次亜塩素酸ナトリウム	色物は、塩素系薬剤で色落ちすることがあるので注意。
革製品	逆性せっけん、両性界面活性剤 グルコン酸クロルヘキシジン エタノールで拭く、紫外線	材質を損ないやすいので薬液による消毒は、拭くだけにする。熱消毒と長時間薬液につけることは避けること。

